

# みどりの風

令和2年6月26日（金） 発行人：校長 角田 亮明

緑  
の  
誓  
い

- さわやかにあいさつをします
- 進んで勉強します
- きまりを守ります
- 心をこめて掃除をします
- みんなと仲良くします

## 算数科研究授業スタート！！

五島市教育委員会指定：算数科の研究2年目が動き始めました。研究テーマ『主体的に学び合う児童の育成～ねらいに即した「書く活動」を重視する算数科の学習を通して～』に迫るために、授業研究を中心に実践を重ねていくこととなります。授業研究の先陣を切ったのは5年1組：高洲学級。小数の除法での余りの意味を理解し、余りを求めることができるというのが本時授業の目標です。さてさて、本時の問題は・・・。

2. 5 mのリボンを、1人に0. 7 mずつ配ります。何人に配れますか？  
また、何mあまりますか？

です。

子ども達は、～ずつ配るや何mあまるか等の言葉から、解決のためには割り算を使うこと。また、あまりが出ることを即座に掴み、 $2.5 \div 0.7$ と立式します。

$2.5 \div 0.7$ の計算は、わられる数・わる数共に10倍して、 $25 \div 7$ の整数の形に変えて計算します。本時の焦点は、あまりがいくらになるか？です。

$2.5 \div 0.7 = 3$ あまり4 担任はわざと間違ったあまりを示して、子ども達の学ぶ意欲を高めていきます。

正しいあまりを見つけるにはどうすればいいか？ 子ども達は解決のための見通しを立てます。検算式を使って見つける、0. 1がいくつ分かて考える、cmに直して計算する、図や数直線に表して見つける・・・。これらの方法の中から自分で選び、個人解決を図ります。この時、大事なのが、解決のための考え方・思考の道筋をしっかりノートに書くこと。この「書く活動」を重視することが、子ども達の主体的に学ぶ構えを育てます。書くことは自分の考えを整理することに繋がり、理解を深めます。

個人解決の後は集団交流。考え方を伝え合い、教え合って理解を深めていきます。最後は全体での確認。 $2.5 \div 0.7 = 3$ あまり0. 4と正しい答えを導き出しました。

友達一人一人の意見や考えをみんなが尊重し、仲間と力を合わせて解決に向かう。温かい集団の雰囲気の中で真っ直ぐに学びに向かう、素敵な姿を見せてくれました。



具体物を使って焦点化



個人で深く考えます



仲間と考えを共有します